

第6回益子町図書館基本構想検討委員会会議議事録

日時：令和元年11月19日（火）

13:00～15:00

場所：益子町中央公民館 第一研修室

出席者：委員14名、事務局6名

1.開会

2.委員長あいさつ

3.会議

(1) 先進地視察報告（事務局）

- ・塩尻市
- ・米沢市
- ・東根市
- ・真岡市
- ・市貝町
- ・茂木町
- ・上三川町

(2) 基本理念及び基本方針について

（事務局）

・基本方針について

第5回までのグループワークで決定したことを、事務局側で整理したものが今回の配布資料である。変更点としては、前回5つの柱になっていたものを、1.人の集まる図書館、2.子どもを育てる図書館、3.魅力を伝える図書館、4.暮らしを支える図書館の4つの柱にまとめたものである。1の人が集まる図書館は、人が交流スペース、人が集まるスペースとしての図書館から、「集まる」をキーワードにしている。2の子どもを育てる図書館は、地域、学校、家庭と連携して子供を育てていくという、「育てる」をキーワードにしている。3の魅力を伝える図書館については、益子には郷土資料や観光サービスがいろいろある。それらの持つ魅力。歴史、文化という益子の魅力を伝える図書館ということで、「伝える」をキーワードにした。4の暮らしを支える図書館ということで「支える」をキーワードに入れた。「集まる」「育てる」「伝える」「支える」の4つの柱を基本方針にした。最後の暮らしを支える図書館には、前回挙げられた意見の中で、1.2.3以外の意見を集約したものになっている。町民の活動を支える拠点が前回1にあったものの、生涯学習的な観点を考えれば、人が集まるよりも、暮らしを支えるという視点が適切であるという考えから、4(1)に移行させた。4(2)町内経済の活性化については、働くということをテーマに町の活性化を行うということからこちらにいられている。(3)町民の健康、福祉の増進については、健康に関する図書、福祉に関する図書を収集、情報発信を行い、健康、福祉の増進を図るということで支えるにいたしました。最後の(4)の災害時の情報発信等の防災拠点については、昨今、災害が多いことや、この間の台風被害の甚大なことを鑑みても、災害時の情報発信と地域防災拠点という役割が重要性を増している。そのことから、(4)

には災害時の情報発信等の防災拠点というワードを入れたものである。前回のものとの大きな変更点としては4の暮らしを支える図書館である。これら4つの基本方針から想定される取り組みとして、前回まで、ハード、ソフトに分割していたものを、基本構想においては、あくまで基本方針と施策という点に留めて、より詳細な部分については、来年度の基本計画の段階で定めるということから、今回はこのように、基本方針から想定される取り組みという形でまとめることにした。

(委員長)

基本方針として、「集まる」「育てる」「伝える」「支える」の4点に絞って、そこから(1)～(3)ないし(4)まで細分化してもらった。

まず基本方針の1.人が集まる図書館から精査していきたい。

1 人が集まる図書館

- (1) 町民が集い、憩い、交流する場の提供
- (2) 全ての世代が利用できる学びの拠点
- (3) 静けさと賑わいの調和した空間の提供

「集まる」という点について意見はありませんか？特に意見がなければ次の項目に移っていく。

それでは次の項目

2.子供を育てる図書館

- (1) 地域・学校。家庭と連携
- (2) 子育て世代が親子共に育つ場の提供
- (3) 豊かな心を育む場の提供

これらについてご意見のある方はいますか？

なにか付け加えること等あればお願いします。

(委員)

1の「集まる」が、町内外の人を対象としているのに対して、2の「育てる」が子どもを対象に限定して良いのだろうか。以前から、生涯学習の充実という観点から、図書館で様々な知識を得ることで、人が成長するという事を考えると、子どもだけを対象に絞るのは違和感がある。

(事務局)

事務局として検討したところ、なぜ子どもに絞ったのかというと、1の(2)全ての世代が利用できる学びの拠点という文言には町内外を問わず、全ての世代を問わず、という点に生涯学習的視座を取り入れていることから2については子どもを育てるという形にした。

それに加えて、少子化傾向にある社会において、益子では子供に特化した施策の充実した図書館が必要だと考えており、こういった文言にしている。

(委員)

説明については理解できるが、子どもを育てる図書館という文言には違和感を覚えた。それと同時に1(2)全ての世代が利用できる学びの拠点にも引っかかるものがある。押しつけがましいような響きがあるように思う。加えて、1(2)で全ての世代と書いているから子どもに特化した図書館という文言でいいというのはいかなものだろうか

(事務局)

前回までの議論からも、子どもに対する取り組みというものが多く挙げられていた。そこから、町

としても、子どもを育てるということに重点を置くという考えから、2においては子どもという文言を強調した。前回の議論でも、地域、学校、家庭の連携で育ち、育てるという一文が出ていたので、事務局としては、それを活かす形で子どもを育てる図書館という形にしたものである。あるいは、このように修正してはどうか？等意見があればなにかお願いしたい。

(委員長)

1 (2) についてと 2 の子どもを育てるという表現について何かあれば

(委員)

親子共に育つということだが、小学生の子どもを育てる親も親子だが、成人を迎えた子供を持つ親の親子関係もある。生涯学習的な観点から、そういった親子を取り入れた親子という文言を考えてはいかがだろうか？

(委員)

子どもという言葉から想定されるのは未成熟な存在を対象としているので、そこまで包括的な親子関係を想定するのは難しいように感じるが、事務局としては子どもに対する考えとしてどのように考えているか？

(事務局)

委員の言うように、そのような年齢の親子関係も親子ではあるが、事務局として想定するところの親子関係というものはやはり、幼児、小中学生の親子が育っていく施設を想定している。委員の方の意見としてそういった意見が他にもあれば取り入れていきたいと思う。

(事務局) 子どもについて限定してしまうのはどうという意見に対してだが、前回までの地域、学校、家庭の連携で育ち、育てるという文言の、地域、学校、家庭という言葉から育ち、育てるものの想定される対象というものはやはり子どもになってくる。大人を対象にした場合は、育つというよりも、学ぶという概念が適切であると考え。そのことを踏まえると、大人を対象とした場合は、2の子どもを育てるではなく、学ぶという点では1 (2) や生涯学習的な点では4 (1) で汲み取っている。そのため、2では子どもという括りでまとめている。

(事務局)

加えて、平成 30 年 4 月 1 日に益子町豊かな心育成のまち宣言に子どもたちの豊かな心の育成を目指し、学校・家庭・地域社会が連携を取った活動を行っていくということが掲げられていることから、それに絡めて子どもに特化している方針を掲げている。

(委員)

以前までの議論では、個人の悩みの問題解決、スキルアップ、ビジネス支援といった提案が今回のものでは抜けている。他に入っているのなら問題ないが、それが抜けてしまっていることが問題である。4の町内経済の活性化という点しかないが、それだけでは苦しい気がする。基本方針の策定の上では、包括的で、漏れのない方針を作らなければならない。方針にないものを入れようとすると、単なる付け足しでしかなくなってしまう。ある程度抽象的になっても、子どもに特化するのではなく、含みを持たせたものでなければならないのではないかな？基本方針であって、個別の方針ではないのだから、委員会の方針でそう決定するのなら問題はないが、今まであったものが削除されていることは問題ではないか

(事務局)

スキルアップやビジネス支援ということについては、4の町内経済活性化という点に含ませている。しかし、4の町内経済活性化という文言が分かりにくいものであることは認識しているが、次回までに作成する構想案においては、その説明を行う文言を挿入するのだが、今回の配布資料では分かり難くなっており、申し訳ない。

(委員長)

たしかに抽象的で分かり難い部分があるが、次回には構想案においてわかりやすい形にするという考えであるということ

(事務局)

2番は子どもを特化したというより、子どもから大人まで広く特化したようなもののほうがよいだろうか。たとえば心を育てるといったような、包括的な概念に置き換えた方がよいだろうか？

(委員長)

心を育てるといったような、包括的概念か、子どもを育てるといった考えか、どちらがよいかなにか意見があれば

(委員)

育てるといった言葉が押しつけがましい。共に育ち、育てるならいいが、育てるといった言葉が受け入れられない。

(事務局)

基本理念があり、基本方針がある中で、「集まる」「育てる」「伝える」「支える」という言葉を合わせた形を意図してのものである。

(委員)

今回配られた資料は、ここにきて初めて見たものなので、まだ文言をかみ砕いて理解し、精査するのには時間がかかる。しかし、図書館というものは育てるといったより、共に育っていくようなものであるという考えが個人的にはある。時間も限られているので、これで決定というわけでもないのでも今回はとりあえず会議を進めてほしい

(委員)

子どもを育てる図書館ではなく、親子共に学ぶ図書館としてはどうか

(事務局)

委員のいうように、今回いきなり見せられてもというご意見はごもっともなもので、次回までには、基本構想案を事前に配布することで内容について熟知してもらい会議に参加できるようにする。今回は事務局の現段階の考えを知ってもらうということで、次回、こういった文言はどうかといった提案をいただければとおもう。

(委員)

私は益子にとっても社会にとっても子どもというものを大切に思うので、子どもというものに特化するのはいいことだとおもう

(委員)

基本方針を大項目 1.人が集まる図書館のあとに(1)～(3)とあるが、そのあとに解説文がつく方式にするのか、大項目 1 に対してすべてを網羅する説明をつけるのか

(事務局)

() の文章ごとに想定された取り組みとしてこういったものが挙げられる。といった風なやり方を考えている。今回はそれが無いので分かり難かったことは申し訳ない

(委員)

現在の四つの柱の主体として、人をではなく、人が、に替えることで、人が集まる。子どもが育つ。魅力が伝わる。にしてはどうだろうか。一番下の暮らしがと支えるの結び付けについては難しいが、子どもが育つなら、自発的な要素が感じられるのでよいのだが

(事務局)

課題が解決する図書館などが思いついたが、その場合何の課題が解決するのか?となるが

(委員)

それにこだわらなくてもよいのでは?つまり人が集まる。子どもが育つ。魅力が伝わる。暮らしを支えるでもよいのではないか?

(委員)

魅力が伝わるではなく、魅力を伝えるが適切だと思う

(委員長)

では確認として、人が集まる図書館。子どもが育つ図書館。魅力を伝える図書館。暮らしを支える図書館。この4項目でよろしいか?各大項目の()書きの項目についても異論はないでしょうか?

(委員)

3(3)に郷土、文化の後にスポーツを入れてはどうか

(事務局)

スポーツについては4(3)の健康、福祉の増進の中に、スポーツという言葉の説明書きに入れようという考えである。

(事務局)

3については、地域の魅力に重点を置いていることから、スポーツという文言は、なにか益子に昔から盛んなスポーツがあれば、そこに入れるのも良いと思うのだが、先程係長が言ったように、4のほうに入れるのが適切だと考えている

(委員)

スポーツを3に入れるというのはすこし違う気がする

(委員)

観光サービスというのも言葉足らずな気がする

(事務局)

この部分も良い文言が思い浮かばないまま、仮置きする形で観光サービスといれたものである

(委員)

魅力を伝える中に観光という要素も大切なことである

(事務局)

3(1)の中の説明の中に観光という言葉を入れて、(1)から(3)までにするということも考えたのだが

(委員)

観光というと観光協会のようなことをするというのではなく、別の形で町の魅力を伝えるという

ことか

(委員)

図書館内に益子町の魅力、文化財や焼き物に関することをまとめたコーナーを作ることは観光案内に結びつくのではないかと

町内の人でも意外と知らない人が多いからこそ、町のことを知ることが出来るコーナーはいいのではないかと

観光ということが(1)に含まれているともとれるが

(委員)

(1)が町内外問わずの情報発信に対して、(4)は町外の方を対象にしたものということではないかと

(委員長)

文言等について(4)は次回までに考えていくということで次の4.暮らしを支える図書館に移る。(1)町内の活動を支える拠点(2)郷土資料の収集・保存・活用(3)町民の健康、福祉の増進(4)災害時の情報発信等の地域防災拠点についてなにか意見があれば。町内経済の活性化については、後ろに説明がつくということによいか。

(事務局)

町内経済の活性化という文言がよいのかどうかについては確信が持てないが

(事務局)

前回までは、町内商業の活性化という文言だったが経済のほうがより範囲の広い表現かと変更を加えたものである

(委員長)

なにかいい意見のあるかたは?

(委員)

前はまちづくりの活性化という意見があったが

(事務局)

確かにまちづくりというのもわかりやすいと思う。そういった一文に加えて、先程委員からあったように、ビジネス支援やスキルアップについての文言をいれようと思う

(事務局)

ビジネス支援や商業の活性化という言葉に対してはまちづくりということばより、町内経済というほうがうまく結びついていると思う

(委員)

レファレンスの充実ということのなかには、求められている情報の提供ということにあるので、大きい括りで考えれば、ビジネス支援にしてもスキルアップの情報についてもレファレンスというところに集約される

(委員)

図書館の機能として、観光サービスは観光協会の機能なので、図書館としてはどうかとおもう。移住定住については図書館の機能にマッチしないのではないかと。益子においては、交流人口、観光客は多いが移住定住は少ない。重要なのは、一過性の交流人口と移住定住者の間にいる存在。関係人口である。関係人口とは一過性の観光客とは異なり、何度も益子に足を踏み入れてくれる人を指し

ている。この関係人口は図書館の機能とマッチしているのではないか。具体的には、観光ボランティアや里山の会といった、益子の魅力を伝えたいと活動されている方々が益子にはたくさんいる。そういった方の活動を図書館で発信する場所にすることが出来れば、図書館に来た人がそうした活動を知り、毎年この時期には竹打ちをするといった活動に参加できるようにすることで、関係人口形成につながる。交流人口については観光協会が、移住定住については道の駅が、その間にある関係人口形成については図書館が担っていければよいのではないか

(事務局)

4 (2) について、新ましこ未来計画にあるスモールビジネスの推進と起業支援という部分を入れたいという考えがある。

(委員長)

人財づくりという考え方からいけば、ビジネス支援等も町内経済の活性化ということに関わってくる。次の(3)になにか意見のある方はいますか？

(委員)

町民の健康、福祉の増進には、スポーツの増進ということが重要になってくることから、文言の中に織り込んで良いのではないか

(事務局)

スポーツの増進は健康、福祉の増進には大切であるが、タイトルはこのまま、説明によってスポーツを入れるのが適切と考える

(委員長)

スポーツは説明の中に入れるということで、次の(4)でなにか意見のある方は

(委員)

災害時の情報発信等という、情報発信等はいらないのではないか

(委員)

災害対策というのは補助金獲得の意図で入れるのか

(事務局)

前回防災拠点にするという意見が出ていたことがある。人々の暮らしを支えるという観点に立てば、防災というものもここに含めるのではないかと考える

(事務局)

4の項目は、複合施設を念頭に置いた項目を集約している。1.2.3の項目については図書館のものであるが、4についてはそれ以外の部分を入れている

(委員長)

(1) 町民の活動を支える拠点はそのまま。(2) 町内経済の活性化は文言を考える (3) 町民の健康、福祉の増進はそのまま、説明にスポーツにふれるということで、(4) 災害時の地域防災拠点ということで、情報発信等を削る。

基本方針についてはこれで、つぎに運営方針に移る。

・運営方針について

直営、委託、PFIについて (事務局説明)

(事務局)

基本構想検討委員会においては、どの運営方針で行くか、ということを決めることはできないものの、今あげられたようなメリット、デメリットを踏まえた上でどういった方法が一番良いのかを議論していきたいとおもう。

(委員)

メリット、デメリットについて箇条書きにしてほしい

(委員長)

次回に、基本構想案とともに、各運営方針のメリットデメリット、費用の概略、時間等どれくらいかかるのかの資料をつけてもらいたい

・場所について

(事務局)

場所についても、今日決定するという事は難しいとおもうが、基本構想検討委員会においてはこの場所が望ましいと考えるといった結論付けをしていきたい。

(委員長)

場所については、1 役場周辺 2 益子駅周辺 3 メッセ周辺 4 高台 (水害対策)

(委員)

メッセ周辺というと、土祭りのときの土舞台の跡地ということでしょうか

(事務局)

メッセの周辺については土舞台跡地を検討している。それより上の場所は用地取得が難しい

(委員長)

だれでも行きやすいような場所を考えていきたい

(委員)

現在益子駅を利用している学生は何人くらい？

(事務局)

今はわからない

(委員)

益子駅はあまり学生利用者がいないのではないかと。人数が少ないなら、益子駅にするメリットはない

(委員)

駅舎で遅くまで勉強している高校生がいる。

(事務局)

現状では答えはでないので、次回どこがいいかを検討していくということで

(委員長)

それでは次、その他に移るとということで、次回の日程を決める

(3) その他

・次回検討委員会について 2月4日(火)13時30分

4.閉会